

国内各都市の状況

別表

	東京	京都	大阪	神戸	福岡
MICE開催件数	ICCA（2019年）：131件（10位）	ICCA（2019年）：67件（35位）	ICCA（2019年）：21件（143位）	ICCA（2019年）：35件（20位）	ICCA（2019年）：28件（25位）
経済効果算出結果	毎年算出しているが非公開。	観光庁簡易測定モデルベースでは市内への経済波及効果が年間約235億円と試算（R元年度）	大阪府で年間に開かれた国際会議などMICEの経済波及効果が164億円と発表（H27年度）	観光庁簡易測定モデルベースでは市内で開かれた主要なMICEの経済波及効果が791億円と発表（H30年度）	H27年産業連関表を使用した観光客の消費構成から経済波及効果を6,106億円と算出（R元年度）
MICE戦略の概要と特徴	ウィズ・コロナではオンラインPR推進により海外の主催者等の東京への関心を繋ぎとめ、ポスト・コロナで対面営業を一気に展開する。また、誘致中の国際会議ではデジタル化等新たな競争条件を踏まえた提案により誘致強化を図る（東京観光財団経営改革プラン）	MICE主催者や参加者、地域の方々の安心・安全を確保するとともに京都らしい満足度の高いMICEの誘致・開催を目指し、その指針となる「ウィズコロナ社会におけるMICE京都モデル」の策定や、補助金の拡充・新設など、 安心・安全で地域に貢献できる、京都らしいMICEを開催いただけるよう努めている	「大阪におけるMICE推進方針」（平成29年3月策定）に基づき、大阪の経済成長及び都市格向上に資する国内外からのMICE誘致を戦略的に進めている。 また、誘致だけでなく主催者への企画提案による展示会の新規立ち上げを行っていることが大きな特徴	MICE関連分野においては、 オンライン中心から対面(リアル)を重視した開催への回帰 に向けて、神戸MICEブランドの認知と価値向上に向けた取り組みを進める。あわせて、継ぎ目なくアフターコロナにつなげていくために、世界的な移動の再開に備えた取り組みも継続して進め、「滞在型国際観光都市の実現」「グローバルMICE都市の推進」を目指す	コロナの感染状況を踏まえながら、新しい生活様式や価値観の変化を見据えた、地域資源を活用した魅力の再発見・磨き上げ、新たな観光コンテンツの発掘など 福岡ならではの観光スタイルを創出・推進 し、地域経済の回復・活性化に向けて取り組んでいる
KPI・KGIをどう設定しているか	開催件数、主催者満足度、参加者アンケート、企業系ビジネスイベントのプロモーション活動などを幅広く定点観測	非公開	都市別国際会議開催ランキング世界30位以内 府内国際会議開催件数 600件以上(JNTO基準) 経済波及効果 400億円以上(国際会議、インセンティブツアーのみ)	MICEの推進のKPIとして国際会議開催件数を420件としている(令和7年) (2021年4月「KOBEビジョン」)	MICE開催件数 シンボリックな大型MICEの誘致 総消費額、参加者数、1人当たり消費額 新規ビジネス誘発額
誘致目的、コロナ後のビジョン	【再掲】ウィズ・コロナではオンラインPR推進により海外の主催者等の東京への関心を繋ぎとめ、ポスト・コロナで対面営業を一気に展開する。また、誘致中の国際会議ではデジタル化等新たな競争条件を踏まえた提案により誘致強化を図る	・ウィズコロナ社会における安心・安全なMICEの徹底と開催スタイルの変容への対応 ・MICE京都ブランドの一層の磨き上げと競争力強化 ・MICEによる地域への貢献や、 産業・学術・文化・スポーツ等の振興の促進 ・オール京都のMICE誘致・開催に向けた担い手の育成と環境整備	主催者に選ばれるための環境整備 ・「安心・安全・清潔とSDGs対応MICE」を目指す施策立案 ・MICE会場の機能強化案の策定 ・ユニーク・バニユーの開発強化、アフターMICEプログラム充実	海外MICEの再開に備えて、リニューアルした神戸MICEのブランドを積極的に活用し、統一的なプロモーションを行い、MICE都市・神戸のブランド認知・向上を図る。あわせて、海外MICE見本市へのオンライン出展や他都市ビューローとの情報交換等を行い、時代に沿ったプロモーションを推進する	MICE業界の回復に向けて、デジタル技術を活用したハイブリッド開催など、新たな開催方法の実現に向けた支援を提供していく。 ・MICEのハイブリッド開催支援事業 MICE主催者にリアルとオンラインを併用したハイブリッド開催に係る経費や安全対策費、MICE施設にオンライン配信に係る機器購入費等を助成し、安全なMICE開催を支援する
主要MICE施設とその稼働状況	東京国際フォーラム（各会場稼働率） 2019年度 46.5%～78.4% 2020年度 11.7%～47.5% 東京ビッグサイト（展示ホール稼働率） 2019年度 69.5% 2020年度 22.7%	2019年の主な会場の稼働率は下記の通り。 メインホール 57% アネックスホール 50% イベントホール 53% ニューホール 42%	2019年度全館平均稼働率は、2016年度から2019年度は63.3%～83.1%であったが、2020年度には29.5%にまで激減している	神戸国際会議場 会議室（日数稼働率） 2020年度 63.4% 2019年度 72.1%	福岡国際会議場 2020年 31.8% 2019年77.7% マリノメッセ福岡A館 2020年 14.7% 2019年83.3% 福岡国際センター 2020年20.3% 2019年80.7%
マーケティング手法	・開催意向調査の実施 ・会議主催者への誘致活動 ・国内見本市への出展 ・国内都市選定時の誘致活動	MICE主催者等とのネットワーク強化による情報収集やMICE関連データの調査・分析等により、効果的・効率的MICE誘致に向けたマーケティング能力の向上を促進する	リアル開催の価値を実感しやすい展示会・イベントの誘致強化・大阪の都市ブランドを高めるMICEを誘致(食、スポーツ、LGBTQ など)	これまで海外インセンティブツアーを組んでいた企業・団体が、行き先を国内へ変更する流れとなっている機会を捉え、新たに「国内インセンティブツアー誘致補助金」を設けた	MICEアンバサダーとの連携や、海外及び首都圏とのネットワークを活用する。
開催支援・助成金制度	国際会議1件あたりの限度額 ア 9,600泊以上 8,000,000円 イ 3,200泊以上9,600泊未満 6,000,000円 ウ 800泊以上3,200泊未満 4,000,000円 エ 400泊以上800泊未満 2,000,000円	●大規模国際コンベンション開催支援助成金 …最大1,000万円 ●小規模MICE開催支援補助金 …最大20万円 ●中規模MICE開催支援補助金 …最大60万円	(1) 国際会議誘致開催助成金 (2) 開催支援制度	●ハイブリッド会議開催支援助成金 …対象経費の50%(上限300万円) ●国内インセンティブツアー誘致補助金 …ツアー参加者1名につき 3,000円(上限100万円迄)を補助 ●ポートピア '81記念基金補助…最高500万円：会議開催総事業費の5% など	●国際コンベンション開催助成金 …最大1,000万円 ●国内コンベンション開催助成金 …最大300万円 ●MICE主催者向けMICEハイブリッド開催支援・安全対策支援助成金…上限50万円
誘致組織	(公財)東京観光財団	(公財)京都文化交流コンベンションビューロー	(公財)大阪観光局	(公財)神戸観光局	(公財)福岡観光コンベンションビューロー
人材育成の枠組み	MICE 専門人材育成事業 (ア) MICE 専門人材育成講座(基礎) (イ) MICE 専門人材育成講座(実践) (ウ) MICEプロフェッショナル人材育成 (エ) 国際会議主催者向け会議誘致に係る東京 MICE 施策の普及啓発	大学やMICE主催者等と連携し、学生等のMICEへのボランティア参加を推進し、MICEへの関心を高めることにより、将来の担い手育成を図る	将来にわたって大規模な展示会や国際会議を誘致・開催するMICEビジネス人材の育成を目的に、大阪観光局など18企業・団体が「大阪MICEアカデミー」を発足。 各企業・団体から選抜した約50人を対象に勉強会やワークショップを開くなどして、MICE事業の実務を担う人材確保やネットワーク構築を進める	関西学院大学が実施するMICE・地方観光人材育成プログラムにケース教材の提供やインターンシップなどで協力	福岡観光コンベンションビューローは福岡市と共催で、福岡のMICE振興を担う人材の育成を目的とした福岡グローバルMICEオンラインスクールを開講している。学生のみならず、一般参加者（オンラインプログラムのみ）も受講可能
ユニークベニユー活用事例	海外都市との誘致競争を有利に進めるため、ビジネスイベントの開催都市として不可欠な要素であるユニークベニユーを都内においても利用しやすくし、ユニークベニユーを利用したレセプション等を行う主催者に対するの支援を行っている。 テレコムセンタービル アトリウム 第29回国際地図学会議（ICC2019） 地図展 葛西臨海水族園 第10回世界水族館会議 プレイバント・アイスブレイク	京都迎賓館 各国の国公賓等を接遇するため、我が国の伝統技能と現代の建築技術を融合した「現代和風」建築として平成17年に建設。国の迎賓施設としての品格を損なわず一定の公益性を有する行事について、ユニークベニユーとして利用されている。 元離宮 二条城（世界文化遺産） 二条城の歴史的価値や格式を最大限に活用した「世界遺産・二条城MICEプラン」を実施	大阪は、個性豊かなユニークベニユーを持つ都市でもある。 山本能楽堂 国際イノベーション会議Hack Osaka 2015 前夜祭 大阪城西の丸庭園 大阪迎賓館 1995年に国際会議『APEC '95』の舞台として各国の要人をもてなす場所として創建され、2019年の『G20大阪サミット』の夕食会場にもなった会場。約2万坪の広大な庭園の中にあり、そこから大阪城を一望できる非日常な場所である	神戸では、六甲山や神戸港から望む1,000万ドルの夜景を楽しみながらのパンケツ、日本一の酒どころ「灘五郷」、日本三古泉の有馬温泉、北野異人館など神戸ならではのプログラム、ユニークベニユーが楽しめる 北野異人館 旧レイン邸 ルミナス神戸2	川端商店街 アーケードで覆われた全長約400mの商店街。福岡でもっとも歴史の古い商店街で、伝統工芸品や和菓子扱う老舗が立ち並んでいる。この長い商店街を会場として、パーティー等を開催することができる。 商店街の協力店舗による飲食提供や伝統芸能体験イベントなど、商店街と一緒にパーティーを盛り上げることができる ベイサイドプレイス博多 “ベイサイドジャック”と称し、ベイサイド一帯を会場としたオープンエアの懇親会を実施した実績あり

海外各都市の状況

	ソウル	シンガポール	バルセロナ	パリ	ラスベガス	フランクフルト
MICE開催件数	UIA：609件（3位） ICCA：114件（15位）	UIA：1205件（1位） ICCA：148件（7位）	UIA：160件（10位） ICCA：156件（4位）	UIA：405件（4位） ICCA：237件（1位）	UIA：－ ICCA：10件（267位）	UIA：－ ICCA：31件（98位）
経済効果	－	シンガポールのGDPの約1%を占め、34,000人以上の雇用を支え、38億ドルの経済的付加価値を算出(2019年)	－	経済効果は、13億4,000万ユーロと推定(2018年)(誘導効果、地方自治体や地域の財政的・社会的誘導効果除く)	訪問者の消費に関連する経済生産高は総額636億ドルと発表（2019年）	ビジネスイベントによって生み出された総売上高は9億8730万ユーロと発表（2018年）
MICE戦略の概要と特徴	コンベンション分野の戦略的育成を目的として、『国際会議産業育成基本計画』（2006年）、『展示産業発展法』（2008年）を規定。MICEを国の戦略的分野に掲げ、法律等で支援している。MICE産業を高付加価値な未来成長動力産業であると位置付け、MICE産業を育成するために『2019年ソウルMICE産業育成基本計画』を発表した。 <u>国の重点分野の再生可能エネルギーや鉱物資源、林業、漁業等の自然資源分野のMICEを積極的に誘致している。</u>	海外からの民間投資の呼び込みを国家的課題として掲げている。特に、 <u>金融、バイオメディカル・ヘルスケア、環境・エネルギー等の国の重点分野のMICEの積極的誘致に取り組み</u> 、MICEを通じた戦略的な産業振興を標榜する。豊富なMICE誘致予算を背景とした高額な開催支援金を主催団体に支給（金額非公開）しているほか、機能性の高い大型MICE施設があり、空港からのアクセスもよく、ソフトとハード一体的に施策を推進している。	古き良き時代の魅力と大都市のスピード感あるライフスタイルの融合を表現し、芸術、美食、スポーツ、過ごしやすい天候等で差別化を図る。 『Tourism Marketing Strategy for Destination Barcelona』では、持続可能性の保証、投資に対する社会的リターンを最大限に確保しながら活動の競争力を促進、戦略的経済部門における観光の乗数効果の向上、統合的管理の奨励、デスティネーションを構成する様々な声の取入を目標とする。	欧州最大の経済圏として、航空・宇宙・防衛、自動車、ICT、ヘルスケア等、多様な産業が集積しており、研究機関（CNRS, Inserm）の大半が立地していることから、特に <u>医療分野の学会やIT分野の企業ミーティングを優先的な誘致対象催事と位置付けている</u> 。大規模MICE施設、地理的優位性を強みとし、欧州内で開催される国際会議を積極的に誘致・開催している。	コンベンション施設の総床面積100万㎡以上を有し、IR運営事業者等と連携してMICE誘致を進める。MICE施設をカジノホテルに併設させることにより、ビジネス客をターゲットするとともに、総合エンターテインメントを強みにレジャー客の誘致にも成功しており、エンターテインメントやカジノ、グルメ、ショッピングモールなどをホテルに兼ね備えた巨大な複合施設が集まる世界最大級のエンターテインメント都市としてPRしている。	優れたインフラと世界の交通・輸送ネットワークへの理想的な接続のため、化学/医薬品/ライフサイエンス、金融サービス、IT/通信、クリエイティブ産業、物流/モビリティを主とした多くの重要な企業、団体、科学研究機関が拠点を置く。主催者は、会議インフラだけでなく、関連する多くのビジネスセクターの本拠地であり、既存の業界固有のネットワークを活用することが可能であることに注目している。
KPI・KGIをどう設定しているか	－	KPIは、主に観光収入と外国人参加者の数であったが、国境規制が導入されたことでKPIを調整する動きがある。	－	－	－	－
誘致目的、コロナ後のビジョン	ポストコロナ時代に対応し、MICE市場に最適化した環境を迅速に構築すべく『2021年ソウルMICE産業育成計画』と『ソウルMICE業界危機克服プロジェクト』、イベント会場防疫支援及び安心保険の提供、360°3Dで実装された『バーチャル・ソウル』プラットフォームの構築など、 <u>新型コロナウイルス感染症発生の初期段階からMICE業界との協力によりソウルMICEの持続可能性を高め、世界的に評価されている。</u>	国土が小さく内需も小さいため外需獲得の手段としてMICEを戦略的に活用。COVID-19リカバリー・プランの一環であるマーケティング・パートナーシップ・プログラム（MPP）にて、MICEイベント主催者を対象に、国際的なマーケティング活動の支援、国際的なプレゼンスの維持、ビジネスイベントの目的地としてシンガポールを選び、復興期の観光客の需要を喚起することを目的としている。	第42回UNWTO加盟国総会にて、『HOTELS SALUT PROJECT』、『BARCELONA, SAFE CITY』、『Biosphere Commitment to Sustainable Tourism』、『Safe Travels Label (WTTC)』を取りあげている。 2022年の会議において、会議主催者への支援の表明として、「Welcome back」のメッセージと、対面式の活動に戻ることの重要性を述べている。	－	1869年に賭博を合法化。1970年代後半から80年代前半にかけて業界の浄化が進展し、大規模なリゾート施設が立ち並び現在のラスベガスとなる。1990年代以降、カジノ施設やホテル、エンターテインメント施設に加え、MICE施設が併設されたIR施設が次々と誕生した歴史がある。	－
主要MICE施設	・KINTEX（108,049m ² ） ・COEX（36,027m ² ） ・ソウル世界貿易センター（SETEC）（7,948m ² ）	・シンガポールEXPO（100,000m ² ） ・サンズ・エキスポ&コンベンションセンター（41,000m ² ） ・サンテック・シンガポール国際会議展示場（38,970m ² ）	フィラ・デ・バルセロナ グランビーアセンター（203,106m ² ） ムンジュイックセンター（118,011m ² ）	・パリ ノール ヴィルパント見本市会場（246,312m ² ） ・ポルト・ド・ベルサイユ・エキシビジョンセンター（202,036m ² ） ・パリ ル・ブルジェ（79,692m ² ）	・ラスベガスコンベンションセンター（180,290m ² ） ・サンズエキスポ&コンベンションセンター（115,689m ² ） ・マンダレイベイリゾートアンドカジノ（96,901m ² ）	・メッセ フランクフルト（366,637m ² ）
マーケティング手法	ビジネスとレジャー活動を楽しむのに最適な「 <u>ブレジャー(Bleisure)</u> 」都市としてのソウルを全世界に発信。 ソウル市は、他の都市との共同プロモーションを行うことで、ソウル市のMICE産業の波及効果を他の都市にも広げている。	公民がそれぞれ役割分担し、様々なMICEを受け入れ、IR施設も活用。 <u>豊富なMICE予算からなる高額な開催支援金、政府系WEBページ上でのイベント広告掲載といった支援を行う。</u> 空港からの優れた利便性、カジノやホテル、飲食・物販、エンターテインメントといったアフターコンベンション機能が充実していることもMICE開催地としての魅力として伝えている。	2021年10月にBCBIは、サステナビリティ、DX、テクノロジーの分野で進化している業界の要求に適應するために邁進してきたことが評価され、M&ITブロンズ賞を受賞。 初の広告キャンペーンとして、ミーティング分野におけるデスティネーションの価値（創造性、持続可能性、テクノロジー、革新性など）をアピールするビデオを発表。	パリ市観光局は、パートナー（イル・ド・フランス地方観光委員会、フランス観光開発機構）とともに、国内およびヨーロッパのターゲットグループにリーチするために、デジタルコミュニケーションに焦点をあてており、デスティネーションのプロモーションと同時に、最高の条件でイベントを開催・参加することが可能であることを示すことを目的とする。	ラスベガス観光局は、世界各地でマーケティング活動を行うほか、IR運営事業者と協力してMICEの開催に取り組んでいる。 ビデオコンテンツを作成し、SNSを通じて全世界に公開したり、業界イベントへ出向き、見本市や会議をラスベガスに誘致することに成功している。	世界最大級MICE専門見本市「IMEXフランクフルト」が毎年開催。 2003年から始まった同イベントには、MICEに特化したトラベルカンファレンスとして、世界中のMICE産業のあらゆる分野から数千社ものサプライヤーが集まる。
開催支援・助成金制度	・『PLUS Seoul』（サポートプログラム）を提供 ・ソウルで国際会議を開催・誘致した団体に基金を支給 ・専門的な観光プログラムやユニークな会場の利用をバックアップ。	・Business Events in Singapore MICE誘致・運営事業者に対する補助金 ・Approved International Fair 認定国際展示会に対する税金控除制度 ・Singapore MICE Advantage Program 主催者・参加者に対する財政支援	以下のサービスは無償提供 ・会議の企画・開催に関する提案 ・目的地であるバルセロナでの会議開催を促進するためのPR活動 ・会議の立候補に対する後方支援及び経済的支援	・イベントの開催や滞在に関する質問対応 ・入札書の作成 ・サービスプロバイダーとの連携 ・現地視察の手配 ・コンGRESのプロモーション	ラスベガス観光局はMICE施設を保有する民間事業者に対して、MICE施設の建設費や運営費などの財政的な支援は行っていない。	・イベント会場の手配 ・ホテルの部屋割りを無料で照会・管理、予約優先制度 ・代表者のためのソーシャルプログラム、配偶者のためのプログラム ・現場視察の個別手配
誘致組織	ソウル観光公社の一部門であるソウル・コンベンション・ビューロー <u>ソウル特別市内のMICE施設やホテル等で構成されるSEOUL MICE ALLIANCE</u> を構築し、地域一体で誘致を行う。	シンガポール政府観光局内の「Singapore Exhibition and Convention Bureau」（1974年設立）SECBは政府機関及び業界団体「SACEOS」と連携し基盤強化に取り組む。	バルセロナ観光局（Turisme de Barcelona）の一部門であるバルセロナ・コンベンション・ビューロー（BCB）（1983年設立）	パリ観光局(1971年設立)(非営利団体)パリ首都圏が都市・地域のマーケティングを行う場合、 <u>地方投資促進開発局がパリ商工会議所、MICE関連団体、政府観光局と連携している。</u>	ラスベガス観光局は地域の観光を促進し、リゾート地や産業界のパートナーのマーケティング、販売、広告活動を強化するために設立された公的機関である。	フランクフルト観光会議局の一部門である「Frankfurt Convention Bureau」がノウハウと創造性の両面から支援している。
人材育成の枠組み	・初級者向けの研修プログラムとして、『MICE Supporters』（無償ボランティア制度）の提供。 ・MICE企業への就職を希望する優秀な人材を育成する機関である『ソウルMICE人材バンク』の設置。	・シンガポール政府とSACEOSが連携し、人材育成プログラムを実施。独自の人材育成プログラムを実施している。	・バルセロナ大学観光学部において、観光やホテルに関するホスピタリティ・マネジメントの学習が可能。 ・修士課程では、専門的にイベント・マネジメントについて学習が可能。	『French Event Booster』でのMICEビジネスに関連した企業の支援として、1,000平米の <u>インキュベーションセンターを立ち上げ、イベント主催者とのビジネスマッチングや実証実験が可能。</u>	大学におけるMICE教育の整備として、ネバダ州立大学ラスベガス校 ホテル管理カレッジ 観光コンベンション管理学部がある。	－
ユニークなニュー活用事例	・ノドゥル島 ・文化備蓄基地	・チャイムス ・イスラネド・シアーズ・オ・ザ・バイ	・バルセロナ王立造船所	・ホテル サロモンド ロスチャイルド	・ザ モブ ミュージアム	・ジ エアクラフト ・ディナー イン ザ スカイ